

市内循環バス「川越シャトル」と デマンド型交通「かわまる」の改善について

【川越シャトル】

- 路線や運行ルートの変更を伴わないダイヤ改正の実施について

【かわまる】

- かわまるの利用促進キャンペーン及び利便性向上に向けた実証実験の実施について

令和4年7月19日（火）

都市計画部交通政策課

市内循環バス「川越シャトル」

【川越シャトル】 前回審議会の審議事項等について

1 前回審議会の結果

○ 今後実施していく見直しの方向性について了承をいただいた。

- 第1段階

令和5年3月末までに、路線や運行ルートの変更を伴わないダイヤ改正を実施する。

- 第2段階

令和6年3月末までに、路線の再編や運行ルートの変更を含む路線の改善を図り、それに伴うダイヤ改正を実施する。

○ 第1段階における速やかに実施可能な改善として、効率化の検討対象とする路線及び便を選定し、次回の審議会に諮ることとする。

《参考》 前回審議会における効率化の考え方

① 利用が少ない平日の遅い時間帯に関する便の効率化

② 利用が少ない休日（土・日・祝日）の早い時間帯・遅い時間帯に関する便の効率化

※ 1日に6便以上の運行を行っている路線の中から、1便あたり4人に満たない便を効率化の対象とする。

（川越シャトルは1便あたり8人の利用を目標としているため、その半数の4人に満たない運行便を対象とする。）

○ 令和3年6月に実施したOD調査の結果に加えて、再度、部分的に追加調査を実施したうえで、効率化の検討対象とする路線や便を選定することとする。

【川越シャトル】路線や運行ルートの変更を伴わないダイヤ改正の実施について

1 減便（効率化）の検討対象について

- 令和3年6月に実施したOD調査において、以下の便について利用が少ないことが明らかになったため、検討の対象とした。

●平日7便

系統	便	出発バス停	出発時刻	到着バス停	到着時刻
10	第9便	鶴ヶ島駅西口	18:39	霞ヶ関駅北口	19:01
11（往）	第10便	イーグルバス川越営業所	18:56	霞ヶ関駅北口	19:15
11（復）	第10便	霞ヶ関駅北口	19:29	イーグルバス川越営業所	19:48
30	第9便	南文化会館	19:30	新河岸駅西口	19:42
30	第9便	総合福祉センター	20:45	川越駅東口	21:05
40（往）	第11便	南古谷駅	18:07	埼玉医大	18:25
40（復）	第11便	埼玉医大	18:37	南古谷駅	18:57

●土日祝日7便

系統	便	出発バス停	出発時刻	到着バス停	到着時刻
10（往）	第1便	霞ヶ関駅北口	7:25	鶴ヶ島駅西口	7:47
10（復）	第1便	鶴ヶ島駅西口	8:02	霞ヶ関駅北口	8:24
11（往）	第1便	イーグルバス川越営業所	8:34	霞ヶ関駅北口	8:53
11（復）	第1便	霞ヶ関駅北口	9:04	西後楽会館	9:37
20	第6便	川越駅西口	17:10	霞ヶ関駅北口	17:44
30	第1便	新河岸駅西口	8:10	南文化会館	8:18
30	第6便	南文化会館	16:40	新河岸駅西口	16:50

【川越シャトル】路線や運行ルートの変更を伴わないダイヤ改正の実施について

2 追加調査の実施について

- 令和3年6月のOD調査の結果に加えて、前回の審議結果も踏まえ、本年5月25日から5月31日までの7日間、検討対象とした全14便について、再度、追加調査を実施した。

3 調査結果

- 検討対象全14便のうち、以下の3便については、1日平均4人以上の乗車があった。

[平日]

- ・ 10系統 第9便 鶴ヶ島駅西口発 霞ヶ関駅北口行（18：39発）

[土日祝日]

- ・ 11系統 第1便 霞ヶ関駅北口発 西後楽会館行（9：04発）
- ・ 20系統 第6便 川越駅西口発 霞ヶ関駅北口行（17：10発）

- それ以外の11便については、1日平均4人を下回る結果となった。

※調査結果の詳細は次頁

【川越シャトル】 路線や運行ルートの変更を伴わないダイヤ改正の実施について

●平日便の調査結果

系統	便	調査対象便	利用者合計 (5日間)	利用者 平均	前回調査 平均	2回の調査で4人 以上の利用がな かったもの
10	第9便	鶴ヶ島駅西口発 霞ヶ関駅北口行 (18:39発)	20	4	3.8	—
11 (往)	第10便	イーグルバ [®] 川越営業所発 霞ヶ関駅北口行 (18:56発)	0	0	1	◎
11 (復)	第10便	霞ヶ関駅北口発 イーグルバ [®] 川越営業所行 (19:29発)	5	1	2	◎
30	第9便	南文化会館発 新河岸駅西口行 (19:30発)	1	0.2	0.8	◎
30	第9便	総合福祉センター発 川越駅東口行 (20:45発)	1	0.2	0	◎
40 (往)	第11便	南古谷駅発 埼玉医大行 (18:07発)	13	2.6	2.6	◎
40 (復)	第11便	埼玉医大発 南古谷駅行 (18:37発)	18	3.6	3.8	◎

●土日祝日便の調査結果

系統	便	調査対象便	利用者合計 (2日間)	利用者 平均	前回調査 平均	2回の調査で4人 以上の利用がな かったもの
10 (往)	第1便	霞ヶ関駅北口発 鶴ヶ島駅西口行 (7:25発)	4	2	2.5	◎
10 (復)	第1便	鶴ヶ島駅西口発 霞ヶ関駅北口行 (8:02発)	6	3	3.5	◎
11 (往)	第1便	イーグルバ [®] 川越営業所発 霞ヶ関駅北口行 (8:34発)	6	3	1	◎
11 (復)	第1便	霞ヶ関駅北口発 西後楽会館行 (9:04発)	20	10	1	—
20	第6便	川越駅西口発 霞ヶ関駅北口行 (17:10発)	10	5	3	—
30	第1便	新河岸駅西口発 南文化会館行 (8:10発)	0	0	0	◎
30	第6便	南文化会館発 新河岸駅西口行 (16:40発)	3	1.5	0.5	◎

【川越シャトル】 路線や運行ルートの変更を伴わないダイヤ改正の実施について

4 減便対象とする便の選定について

- 昨年6月に実施したOD調査、今回の追加調査を踏まえ、1便あたり4人に満たない前述の11便について、減便対象とする。
- しかしながら、土日祝日における11系統 イーグルバス川越営業所発 霞ヶ関駅北口行（8：34発）の便については、以下の理由により、減便対象から外すこととする。

【理由】

この便は、霞ヶ関駅北口到着後に、折り返してイーグルバス川越営業所行となる便である。そのため、この便を減便したとしても、イーグルバス川越営業所から、次の運行の出発地となる霞ヶ関駅北口まで回送となるだけであり、それであれば、お客様を乗せられる状態で運行すべきと考えられるため。



【第1段階におけるダイヤ改正】

平日6便、土日祝日4便の10便を減便対象とし、令和5年4月1日からの運行に反映させる。

【川越シャトル】路線や運行ルートの変更を伴わないダイヤ改正の実施について

5 減便した場合における経費の試算

● 令和5年度 運行経費の比較

	令和5年度（減便無し）	令和5年度（減便有り）	比較
運行日数	360日	360日	-
平日1日あたり 運行便数	144便	138便	6便 減
土日祝1日あたり 運行便数	116便	112便	4便 減
年間運行便数	48,564便	46,638便	1,926便 減
年間走行キロ数	426,498km	417,409km	9,089km 減
運行経費	182,704,778円	179,673,574円	3,031,204円 減

※運行経費は、現時点において試算した数値であるため、燃料油脂費の変動等により、この数値は変わる可能性があるため、注意が必要。

6 改善の効果

- 削減できた経費については、かわまるの乗降場サインの大型化の原資として使用することが考えられる。

デマンド型交通「かわまる」

【かわまる】 前回審議会の審議事項等について

1 前回審議会の結果

「運賃割引キャンペーン」や「区域を乗り継ぐ運行に係る実証実験」を実施することについて、概ね合意をいただいた。

【次回審議会までの検討事項】

- ・「運賃割引キャンペーン」の運賃設定、割引対象者の検討を進める。
- ・「区域を乗り継ぐ運行に係る実証実験」の実施による共通乗降場の設置について、運行事業者、共通乗降場の設置候補となる施設管理者等と調整する。
また、乗り継ぎに係る運賃設定について、既存の公共交通事業者等の意見を考慮しながら検討を進める。

《参考》「川越市デマンド型交通かわまる実証実験に係る意向調査」

① 目的

運賃割引キャンペーンや実証実験の実施内容について事前に意見を賜り、効果的な改善策を実施するための基礎資料とするもの

② 調査対象

市内公共交通事業者（路線バス事業者、タクシー事業者）

③ 調査期間

令和4年6月27日（月）～7月4日（月）

【かわまる】改善の方向性について

● かわまるの改善施策

① 認知度向上・利用促進に向け、期間を定めたキャンペーンを実施

【運賃割引キャンペーン】（令和4年10月中旬～12月中旬実施を想定）

② 利用者の利便性向上に向けた、実証実験を実施

【区域を乗り継ぐ運行】（令和5年1月中旬～3月中旬実施を想定）

※追加の改善施策を行う必要があると考えられる場合は、随時実施できるように検討する。

③ 【順次行う改善（令和4年度～）】

- (1) 動画の作成と積極的な活用
- (2) 乗降場サインの大型化
- (3) 乗降場（新規施設や地域内乗降場）の追加 など

④ 【効果検証後の改善（令和5年度中）】

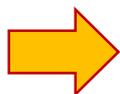
- ・ 実証実験等の効果を踏まえ、効果があると認められた場合に運行内容を改善

【かわまる】認知度向上・利用促進に向けたキャンペーンについて

1 運賃割引キャンペーン

(1) 課題・背景

- 利用者の8割以上が高齢者であり、一般の利用者が少ない。
- 令和3年度に実施した市民意識調査では、「かわまるを知らない」と回答した方は約54%であった。
- 土日や祝日の利用状況が芳しくない。



「かわまる」がどのような乗り物か知ってもらい、現役世代など幅広い層に利用してもらうため、さらには、土日・祝日の利用促進を図るため、「**運賃割引キャンペーン**」を実施する。

● 車両の稼働状況 (R3.4~12)

	稼働時間
地区1	20.8%
月	20.8%
火	24.7%
水	34.8%
木	23.6%
金	26.5%
土	11.1%
日	4.5%

	稼働時間
地区2	50.6%
月	57.1%
火	56.3%
水	55.6%
木	51.5%
金	59.9%
土	48.2%
日	25.7%

	稼働時間
地区3	44.2%
月	41.7%
火	57.1%
水	55.0%
木	47.2%
金	56.4%
土	30.1%
日	22.3%

【かわまる】認知度向上・利用促進に向けたキャンペーンについて

(2) 実施内容

認知度向上・利用促進月間（キャンペーン期間）として、下記の内容を令和4年10月中旬から12月中旬にかけて実施する。

① 運賃均一300円（土日・祝日のみ）

・一般も高齢者同様、運賃を300円とする（障害児のみ150円）。

② 家族割（ファミ割）の導入（土日・祝日のみ）

・同一の乗降場から家族（同居親族等）で乗車した場合、セット価格として運賃を300円とする。

※全ての地区で実施予定。 ※未登録の同乗者は対象外。

① 運賃均一300円



土日・祝日誰でも
300円



② 家族割（ファミ割）の導入



2人でも **300円**



3人でも
4人でも **300円**

【かわまる】認知度向上・利用促進に向けたキャンペーンについて

【参考】かわまる実証実験に係る意向調査（抜粋）

問1 「運賃均一300円（土日・祝のみ）」について、一般利用の方（1回500円）も高齢者と同一運賃とすることについて、どのように考えますか。

（主な回答）

○路線バス事業者

- ・土日祝日の利用が落ちているのはバス業界も同様。運賃を下げることで、既存公共交通に影響が出るのでは。
- ・運賃均一300円については、特に意見なし。

○タクシー事業者

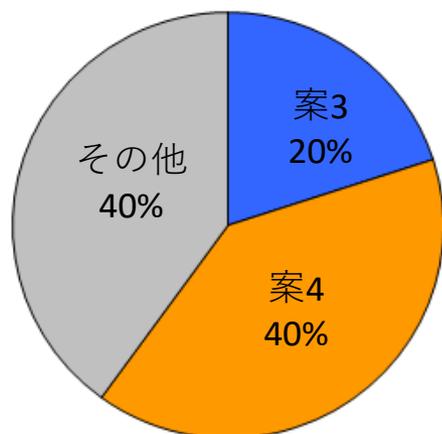
- ・川越市としての予算支出は同じなので、より利用者が増加することが望ましいと思うため、同一運賃とすべき。
- ・周知、利用促進キャンペーンとして適当である。

【かわまる】認知度向上・利用促進に向けたキャンペーンについて

【参考】かわまる実証実験に係る意向調査（抜粋）

問2 家族割（ファミ割）の運賃設定について、望ましいと思われる案を記入してください。

	案1	案2	案3	案4
1人	300円	300円	300円	300円
2人	300円	400円	450円	300円
3人	600円	500円	600円	300円
4人	600円	600円	750円	300円
5人以上	600円	700円	900円	300円



- 案1、案2は0%
- その他の意見としては、「大人300円、小人100円」、「ファミ割は実施しない」、未回答など

この結果を踏まえ、「案4」が最も望ましいと思われる

【かわまる】利用者の利便性向上に向けた、実証実験について

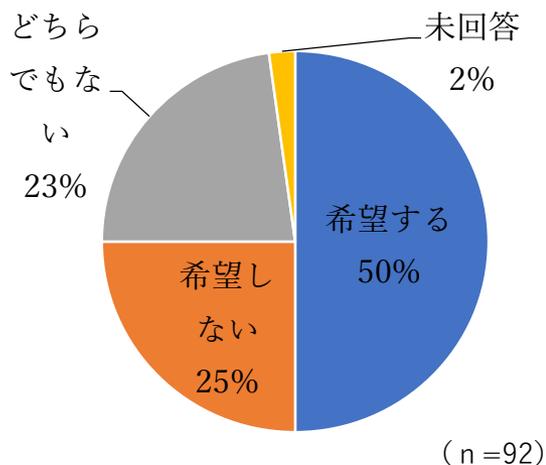
2 区域を乗り継ぐ運行

(1) 課題・背景

- 区域を乗り継ぐ運行については、利用者にとっては乗り換え無しで目的地に行くことができる一方で、長距離の移動が増えることにより1回の運行時間が長くなり、他の利用者の予約が取りづらい状況となることや、タクシー事業者など、既存の公共交通との競合を避けるため、「区域内運行」を行っている。
- 運行開始以来、他の区域の病院に行きたいといった区域を越えた移動を望む声が市に多く寄せられており、令和3年度に実施した利用者アンケートにおいても、半数の利用者が区域を越えた移動を希望している結果となっている。また、議会においても区域を乗り継ぐ運行の実施について、意見をいただいているところである。

(利用者アンケートより)

● 区域をまたぐ運行を希望するか



● 区域をまたいで行きたい場所

商業施設等	医療施設	公共施設	交通結节点他
市中心部(36)	埼玉医科大学総合医療センター(10)	川越聖地霊園(1)	新河岸駅(4)
ビバホーム大井店(1)	武蔵野総合病院(1)	保健所(1)	上福岡(2)
ユニクス南古谷(1)	いしがみ整形外科クリニック(1)	名細の公園(1)	鶴ヶ島(1)
島忠・オーケー川越店(1)	西武川越病院(1)		東上線の駅(1)
KASHIBA温泉(1)	帯津三敬病院(1)		狭山(1)
			鶴瀬駅(1)
			南古谷駅(1)

【かわまる】利用者の利便性向上に向けた、実証実験について

2 区域を乗り継ぐ運行

(2) 実験内容

【共通乗降場（乗継拠点）を利用した運行】

- ・区域境の近くに共通乗降場を設置し、区域間の乗り継ぎができるようにする方法により、令和5年1月中旬から3月中旬にかけて実験を行う。

- 運行効率を大幅に下げることなく、他区域への移動が可能
- 既存の公共交通への影響や各公共交通機関の棲み分けを考慮し、引き続き、現行の運行区域外である「市中心部」への移動は対象外とする。

【参考】 その他の方法の検討結果

【直接乗り入れ】

- ・病院など特定の乗降場のみ、他区域から直接乗り入れることができるようにする方法
⇒高齢者の利用が多い中で、目的地まで乗り継ぐ必要がなく利便性が高くなる一方、以下の課題があるため、実証実験の対象としない。

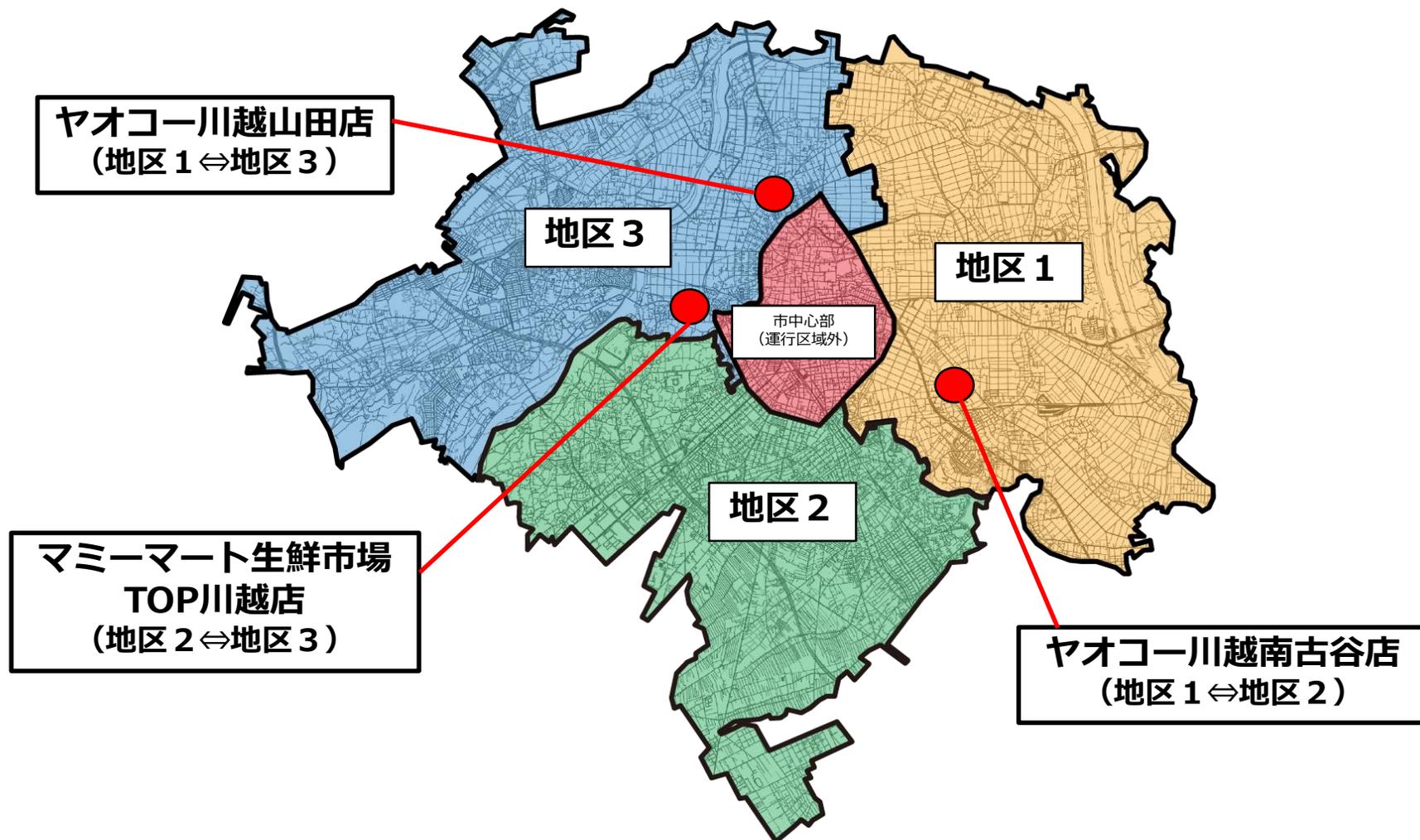
- 回送も含め、長距離移動が多くなり、各区域1台の運行である現状では、運行効率が大幅に下がる。
- かわまるが「安価で便利な乗り物」となってしまう、既存の公共交通の経営に大きな影響が出ることが想定される。

【かわまる】利用者の利便性向上に向けた、実証実験について

【共通乗降場の設置予定地（案）について】

○以下の3つの条件に合致する場所に、共通乗降場を設置する。

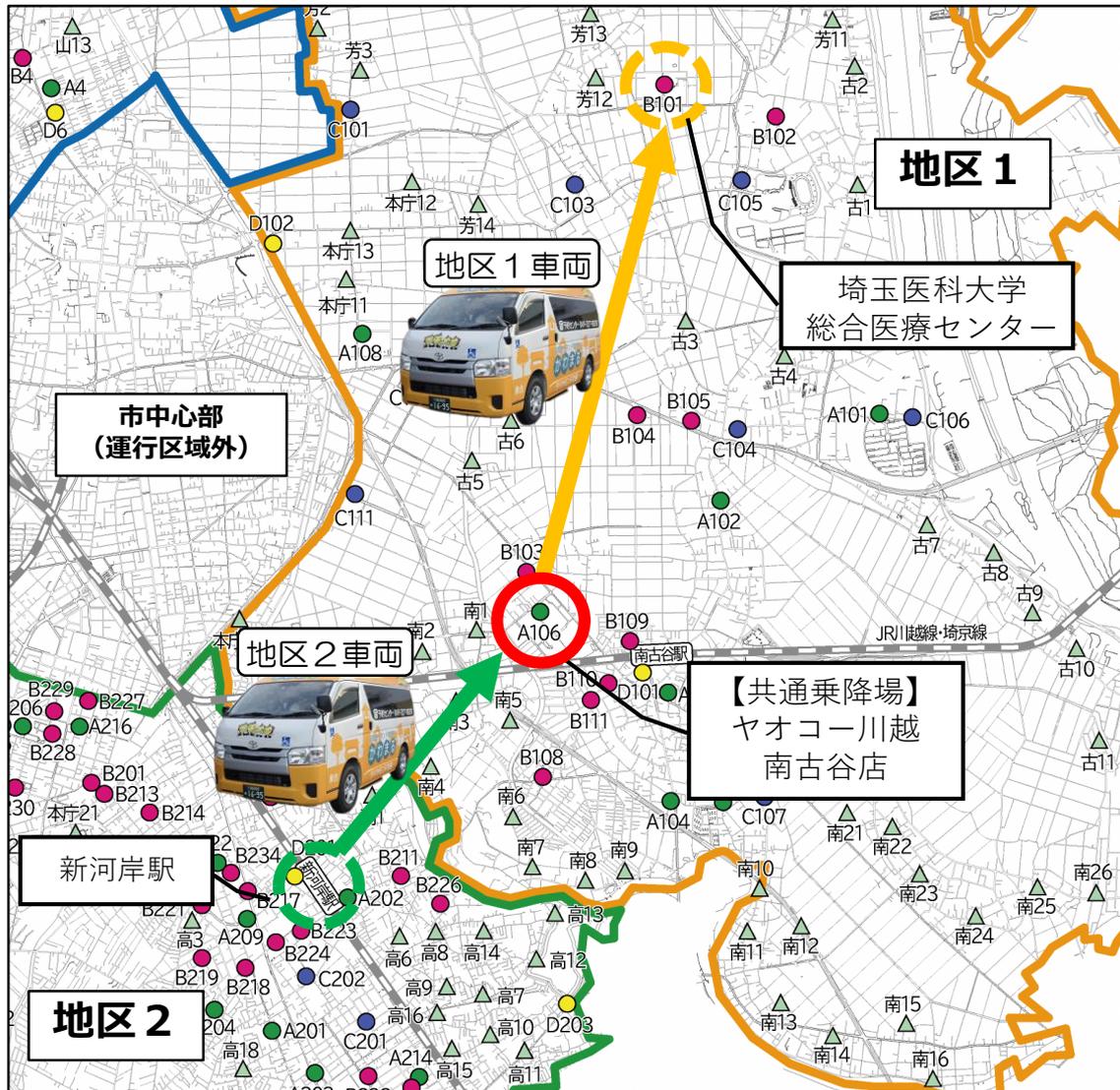
- ① 区域境に近く、通常の運行に可能な限り支障を与えない
- ② 乗り継ぎ時に待機する場所がある
- ③ 乗り継ぎせずに、目的地としても利用される見込みがある



【かわまる】利用者の利便性向上に向けた、実証実験について

【地区1と地区2における共通乗降場活用イメージ】

例) 「新河岸駅 (地区2)」から「埼玉医科大学総合医療センター (地区1)」への移動



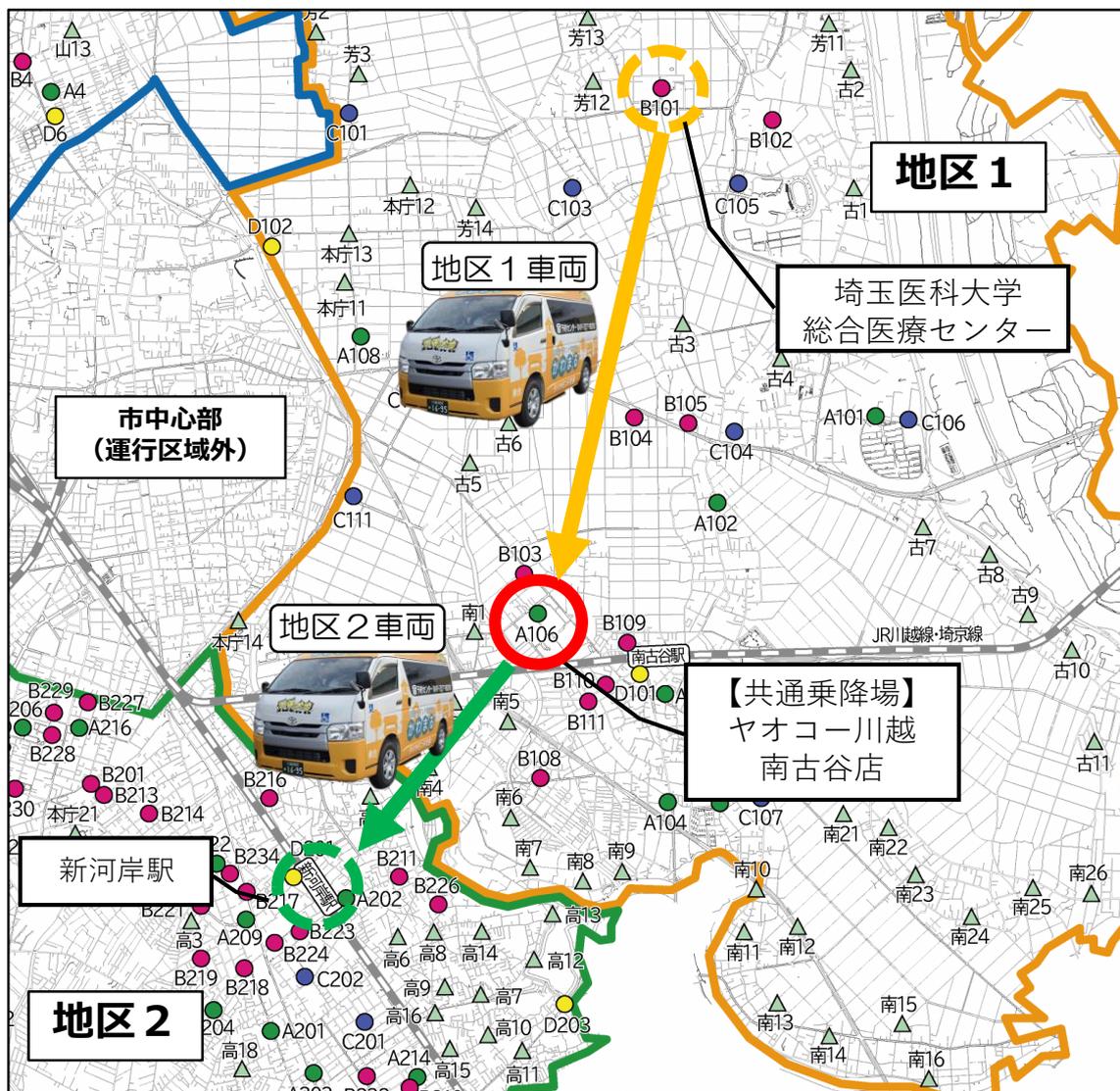
移動の流れ

- ①新河岸駅から地区2車両に乗り、共通乗降場（ヤオコー川越南古谷店）へ移動
- ②共通乗降場にて、地区1車両へ乗り換える
- ③共通乗降場から埼玉医科大学総合医療センターへ移動

【かわまる】利用者の利便性向上に向けた、実証実験について

【地区1と地区2における共通乗降場活用イメージ】

例) 埼玉医科大学総合医療センター（地区1）から新河岸駅（地区2）への移動



移動の流れ

- ① 埼玉医科大学総合医療センターから地区1車両に乗り、共通乗降場（ヤオコー川越南古谷店）へ移動
- ② 共通乗降場にて、地区2車両へ乗り換える
- ③ 共通乗降場から新河岸駅へ移動

【かわまる】利用者の利便性向上に向けた、実証実験について

【地区1と地区3における共通乗降場活用イメージ】

例) 埼玉医科大学総合医療センター（地区1）から霞ヶ関駅（地区3）への移動



移動の流れ

① 埼玉医科大学総合医療センターから地区1車両に乗り、共通乗降場（ヤオコー川越山田店）へ移動

② 共通乗降場にて、地区3車両に乗り換える

③ 共通乗降場から霞ヶ関駅へ移動

【かわまる】利用者の利便性向上に向けた、実証実験について

【地区1と地区3における共通乗降場活用イメージ】

例) 霞ヶ関駅 (地区3) から埼玉医科大学総合医療センター (地区1) への移動



移動の流れ

① 霞ヶ関駅から地区3車両に乗り、共通乗降場 (ヤオコー川越山田店) へ移動



② 共通乗降場にて、地区1車両に乗り換える

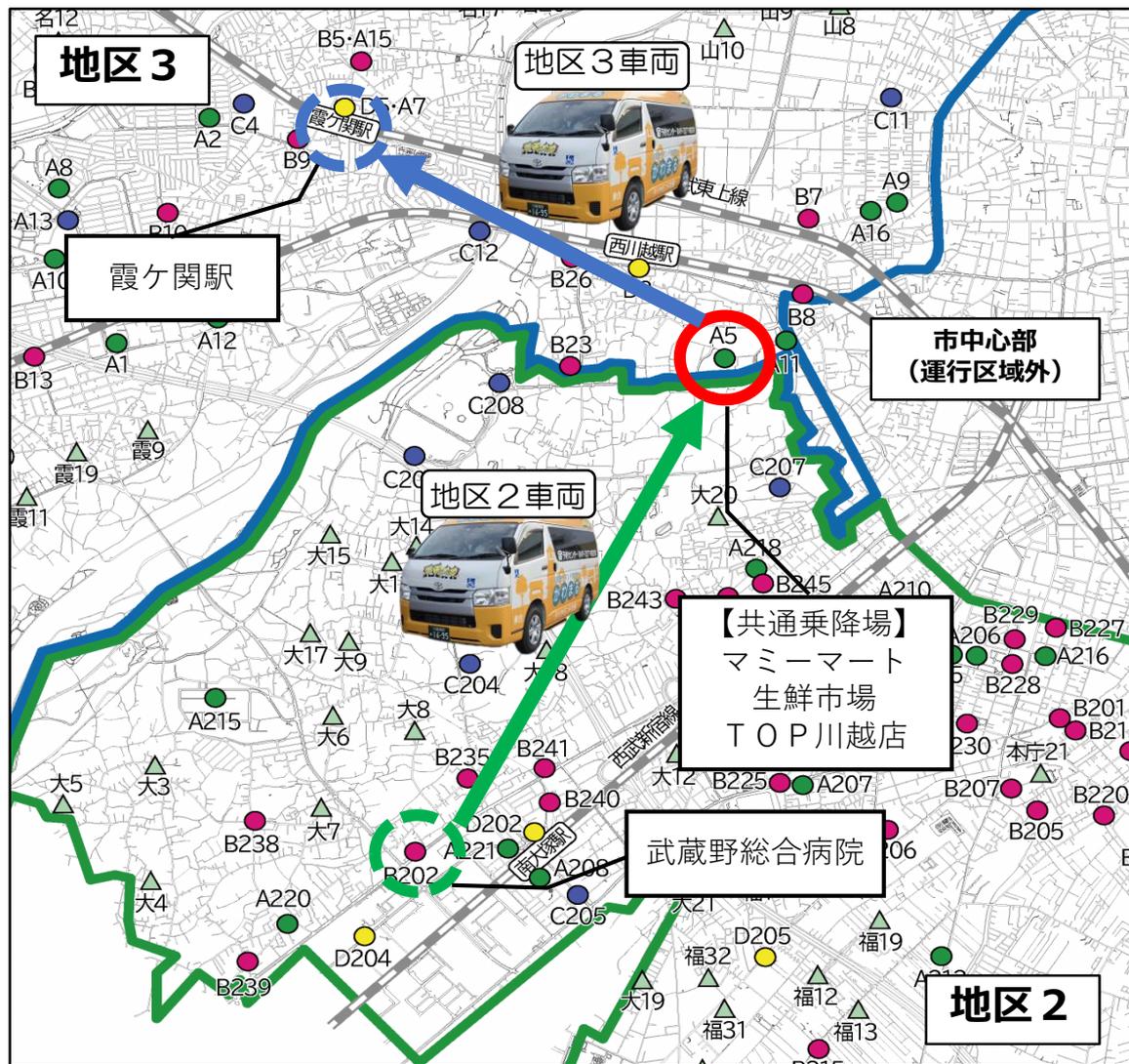


③ 共通乗降場から埼玉医科大学総合医療センターへ移動

【かわまる】利用者の利便性向上に向けた、実証実験について

【地区2と地区3における共通乗降場活用イメージ】

例) 武蔵野総合病院 (地区2) から霞ヶ関駅 (地区3) への移動



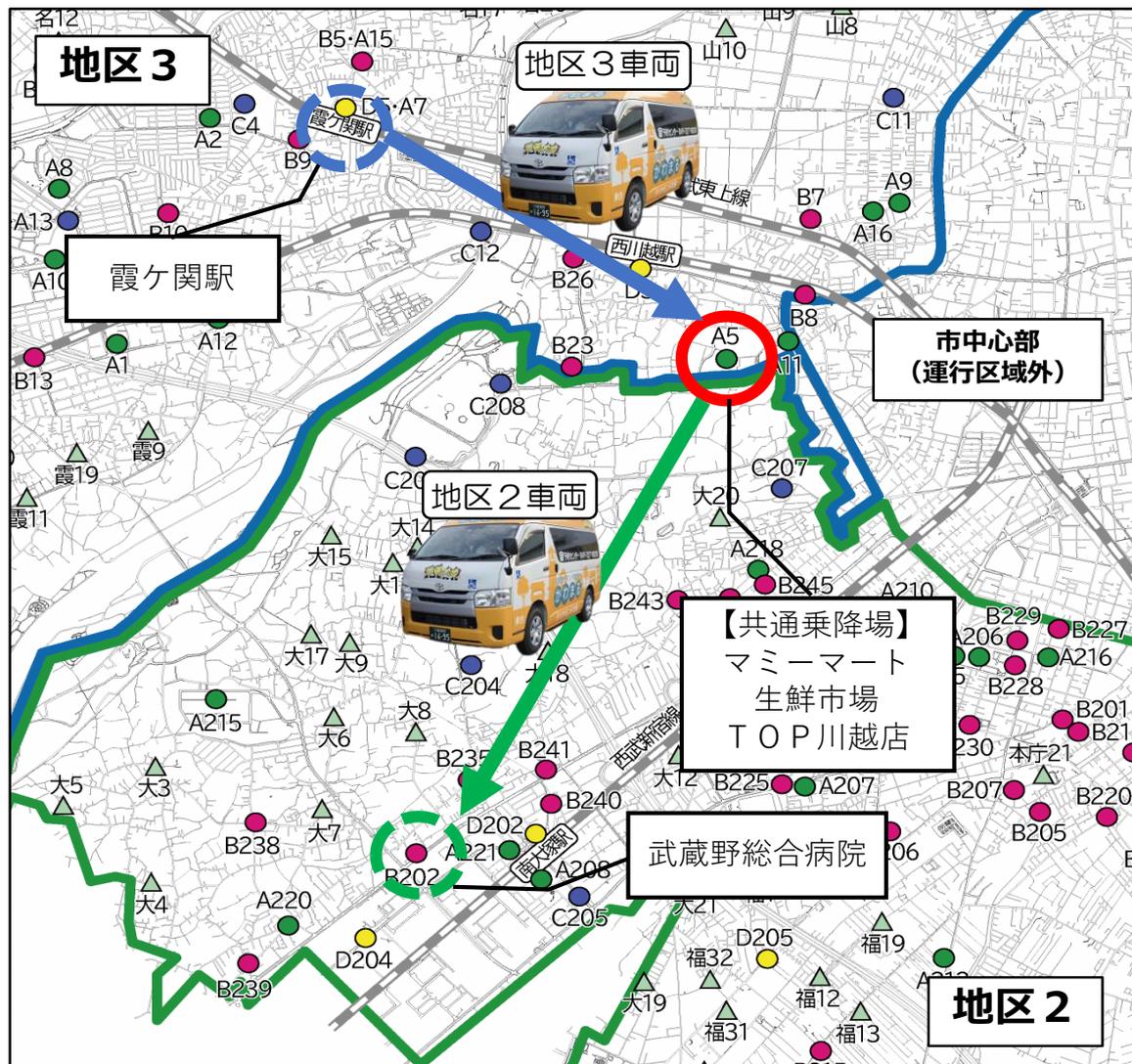
移動の流れ

- ① 武蔵野総合病院から地区2車両に乗り、共通乗降場 (マミーマート生鮮市場TOP川越店) へ移動
- ② 共通乗降場にて、地区3車両へ乗り換える
- ③ 共通乗降場から霞ヶ関駅へ移動

【かわまる】利用者の利便性向上に向けた、実証実験について

【地区2と地区3における共通乗降場活用イメージ】

例) 霞ヶ関駅 (地区3) から武蔵野総合病院 (地区2) への移動



移動の流れ

- ① 霞ヶ関駅から地区3車両に乗り、共通乗降場（マミー マート 生鮮市場 TOP川越店）へ移動
- ② 共通乗降場にて、地区2車両へ乗り換える
- ③ 共通乗降場から武蔵野総合病院へ移動

【かわまる】利用者の利便性向上に向けた、実証実験について

(3) 運賃設定 (案)

高齢者・障害者・小学生

	案1	案2	案3
①最初の乗車運賃	300円	300円	300円
②乗り継ぎ後の乗車運賃	300円	300円+ 乗り継ぎ割増	200円
合計	600円	600円+ 乗り継ぎ割増	500円

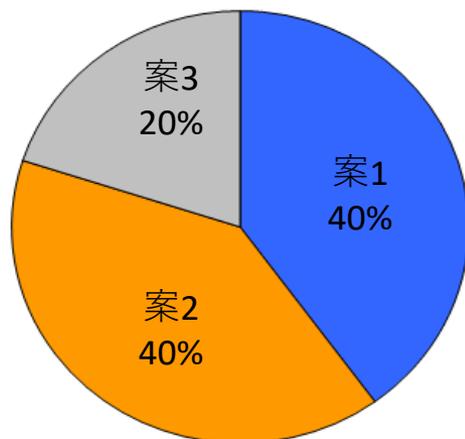
一般・未登録同乗者

	案1	案2	案3
①最初の乗車運賃	500円	500円	500円
②乗り継ぎ後の乗車運賃	500円	500円+ 乗り継ぎ割増	300円
合計	1,000円	1,000円+ 乗り継ぎ割増	800円

【かわまる】利用者の利便性向上に向けた、実証実験について

【参考】かわまる実証実験に係る意向調査（抜粋）

問5 区域を乗り継ぐ運行（共通乗降場）を行った場合の運賃設定について、望ましいと思われる案を記入してください。



(合計運賃)

○案1：600円（1,000円）

○案2：600円 + 乗継割増（1,000円 + 乗継割増）

○案3：500円（800円）

※括弧内は「一般・未登録同乗者」運賃

(主な回答)

○路線バス事業者

- ・運賃割引は必要ない。
- ・それぞれ1回乗車相当の運賃を負担するべき。

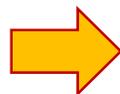
○タクシー事業者

- ・乗り継ぎは安価な運賃で駅や医療機関などの目的地に行くことができ、既存公共交通の利用減少が懸念される。
- ・乗り継ぎ割増を設定すべき。

【かわまる】利用者の利便性向上に向けた、実証実験について

(3) 運賃設定（案）

	案1 (600円)	案2 (600円 + 乗継割増)	案3 (500円)
メリット	<ul style="list-style-type: none">現在の運賃設定と同額であるため、利用者から理解が得られやすい ※R3.12かわまる利用者アンケート結果より <ul style="list-style-type: none">実証実験の検証がしやすい	<ul style="list-style-type: none">既存公共交通に配慮した運賃設定	利用者にとっては、安価に地区をまたいだ移動が可能
デメリット	<ul style="list-style-type: none">既存公共交通の利用減少が懸念される	<ul style="list-style-type: none">乗り継ぎ割増の運賃設定が難しい乗り継ぎ割増の運賃設定額によっては利用がされない実証実験の検証が難しい (利用が少ない場合、乗り継ぎ割増によるものか、乗り継ぎ需要が無いのか、判断できないため)	<ul style="list-style-type: none">既存公共交通の利用減少が懸念される実証実験の検証が難しい (利用が多い場合、安価な運賃設定によるものか、乗り継ぎ需要があるためか、判断できないため)



かわまるの実証実験の実施による「公共交通事業者への影響」や「**実証実験の検証**」を行うことを踏まえ、「案1」が最も望ましいと思われる

【かわまる】利用者の利便性向上に向けた、実証実験について

(4) 検証内容（実証実験終了後）

- 区域を乗り継ぐ運行の実施による利用者は、どの程度いるか。
- 区域を乗り継ぐ運行の実施により、利用者はどの程度増加もしくは減少するのか。
- 区域を乗り継ぐ運行は、利便性が向上するのか。
- 区域を乗り継ぐ運行を行ったことにより、従来の利用者の予約が取りづらくなるか。
- 区域を乗り継ぐ運行を行ったことにより、運賃収入がどのように変化するのか。 etc..

上記の検証内容について十分な分析を行い、利用者、公共交通事業者等の意見を踏まえたうえで、地域における生活の利便性向上を図るための今後の運用について、審議会で検討を進める。

【川越シャトル】 その他（報告）

(1) バス停追加の要望について

- 令和2年4月に扇河岸地内について、令和3年1月に古谷上地内について、既存路線のルート上における新規バス停留所の設置要望があった。現在、事務局において、現地調査等を行っているところである。

① 令和2年4月 34系統 扇河岸地内「砂弁天池」・「岸町南」バス停間



- ・地元自治会から要望書の提出があり、現地調査等を実施し、検討中である。

- ・候補地の多くが公道や私道と交差していて、国土交通省が定める「いわゆる危険バス停」に該当してしまう。

- ・道路の幅員が狭く、バス乗降客や歩行者の安全確保が難しい状況である。

【川越シャトル】 その他（報告）

② 令和3年1月 40系統 古谷上地内「川越運動公園」・「古谷保育園」バス停間



- ・川越聖地霊園管理組合から要望書の提出があり、現地調査等を実施し、検討中である。

- ・霊園敷地内にはバスベイが整備され、そこを共用することで安全性は確保できると考えられる。

- ・通常期の土日祝日、8月の盆や春秋彼岸時には、川越駅東口から霊園までの無料送迎バスが運行されている。

- ・候補地の近隣に住宅はないが、約300m離れた場所に10世帯ほどの住宅が見られる。